

### I-3 [タイトル]「セレン口服液」のHIV感染者に対する補助治療効果の評価

(中国衛生部エイズ病予防及び制御センター) ○蔣岩、邵一鳴、林旭東、馮毅、馬麗英、趙全壁、張輝、  
(新疆自治区エイズ病予防監視センター) 張遠志、  
王冬麗、(北京希力製薬) 顔曉文、楊輝武

〔目的〕「セレン口服液」のHIV感染者に対する治療効果の評価。

〔方法〕男性18人、女性16人、年齢は16～34歳のHIV-1感染者を調査の対象とし、治療組と対照組に分けた。治療組の23例に「セレン口服液」を毎日10ml(セレン400 $\mu$ g含有)、6ヶ月間経口投与、対照組の9例に同じ包装と投与量の「安慰剤(セレンを含有しない同色同味)」を内服させた。被験者にはそれぞれ治療前と治療後の1、3、6ヶ月目に静脈の採血を行い、CD4、CD8の細胞数、血漿中HIVウイルス量と細胞因子の変化等を調べた。

〔成績〕①CD4 $\geq$ 500個/ $\mu$ lの感染者は、治療を受けた6ヶ月後、CD4細胞数が平均116個/ $\mu$ l低下し、対照組は平均135個/ $\mu$ l低下した。一方、CD4細胞数 $<$ 500個/ $\mu$ lの感染者は治療から6ヵ月後のCD4細胞数は平均48個/ $\mu$ l増加したが、対照組は平均26個/ $\mu$ l低下した。②「セレン口服液」はCD8細胞に対して顕著な影響が見られなかった。③治療後CD4 $\geq$ 500個/ $\mu$ lと $<$ 500個/ $\mu$ l両組の血漿中のウイルス量には顕著な変化が見られなかった。④治療後血漿IL-2が治療前より明らかに増加したが、対照組と比較して顕著な差が見られなかった。PBMC自発性IL-2生産の活性は治療後顕著に高くなった( $p=0.03$ )。しかし、PHAに対する刺激によるIL-2の生産には顕著な影響が見られなかった。

〔結論〕①「セレン口服液」は、HIV病の早期治療に適応することを示唆している。②「セレン口服液」は、安全で免疫力を高める保健医薬品として、補助治療に使用できると考えられる。③HIV感染者の早期治療に対するセレンの有効性が今後大いに期待できると評価する。